

「よみがえる羅城門」基本構想

はじめに

平安京と名付けられ、1200年余り前にこの国の都となった京都。

その正門として建立された「羅城門」は、人々を戦火や疫病から防ぎ、平安を守る門であり、その思いは二度の倒壊ののちも、人々の心に受け継がれてきた。

今、混乱と不安の世の中にあって、人々のこころと暮らしに平安を取り戻し守ることを願い、千年の時を超え「羅城門」に込められた思いと技をそのままに、「よみがえる羅城門」として復活する。

1 目的

平安時代の伝統的木造建造物「羅城門」の復活により、世界中の人々のこころと暮らしの平安を願うメッセージを発する。

新しい文化遺産として創造し、後世に継承する。

2 基本指針

1. 現在においてなお著名でありながら存在しない歴史的建造物がよみがえる、という意味を深く理解する。
2. 意匠、材料、技術のいずれにおいてもできうる限りの考証、検証を行い、真正性を追求した工法、材料、意匠を採用する。
検証不明、再現不可能なものについては、工法や意匠等の発展・進化の過程を明らかにしたうえで最適なものを採用する。(将来、真正性あるものが判明した場合には、当該工法、意匠等を適用する余地を残す)
3. これらの考証、検証、採用、施工を通じた見識、知識、技術に係る人材の育成を行うとともに、それらの過程を記録に残し後世に継承する。
4. 千年の都・平安京の文化との出会いの場として、市民・来訪者に愛され、訪れるたびに新たな感動で心が満たされる機能と空間を創造する。
5. 多くの個人、団体、企業のみなさんの理解と賛同、協力を得て実現させる。
6. 持続可能な開発目標 (SDGs) を踏まえる。

3 概要

1. 整備建造物等

- ・ 羅城門（原寸大木造伝統工法。基壇、脇門含む。耐震・耐火・耐風対応。）
- ・ 附帯施設（管理機能及び羅城門・平安京文化の学習・発信機能。）
- ・ 景観形成（羅城門が存在する空間に相応しい、附帯施設とこれらを取り巻くファサード）

2. 整備主体 当基本構想に理解、賛同する個人、団体、企業

4 事業の効果

- 1.人々が戦火や疫病から守られた平安を大切にしよう、というメッセージを世界中に向け発する事ができる。
- 2.「文化遺産」を保全・継承、復活し、新たな「文化遺産」の創造の具体例を世界中に提示することができる。
- 3.伝統的な日本の木造建造技術の継承と発展に資する。
- 4.平安を求める平安京文化に対する理解と共感を得ることができる。
- 5.日本・京都人の夢と誇りの象徴となる。
- 6.訪れたい日本・京都の古くて新しい魅力の創出となる。

5 目標

世界中の人々のこころと暮らしの平安を願う象徴として長くメッセージを発信し続け、将来、世界文化遺産に登録されることを目標とする。

2020年10月20日

明日の京都 文化遺産プラットフォーム